

研究紀要「北の丸」第41号の概要

1. 刊行年月 平成20年12月

2. 刊行部数 1,000部

3. 内 容

(1) 身体近代史

明治時代という新しい国家を創る際、礼儀にかなった身のこなし、身体を清潔にして、服装を乱さないなど国民としての素養、訓練は、容儀、品行を正して他人の模範となる軍隊の大きな役割でもありました。

このような形で国民が作られてくることを分析し、江戸時代の人たちの養成観と、新たに出てきた人たちとの健康観とを対比して論じたもの。

(2) 『魚仙水族写真』『魚介図』『魚類譜』絵図細目

本稿は、奥倉辰行（1859年没、享年未詳）の魚類画集『魚仙水族写真』および長谷川雪且（1778-1843）等の自筆画集『魚介図』『魚類譜』（3点とも当館のみ所蔵）の絵図細目であり、それぞれの図に添えられた魚介図の名称や解説文を翻字したものである。

(3) 日本国内所在の歴史資料の現状と課題・アジア歴史資料センターから見えてきたもの

アジア歴史資料センターで公開が進む政府関連の「アジア歴史資料」を補完し、より総合的な研究を可能とするため、国内の自治体・民間機関等が収蔵する「アジア歴史資料」の所在情報および利用情報を収集・分析・整理して、歴史的資料をいかに収集・保存・活用していくかの戦略的議論等を述べたもの。

(4) 夏の企画展「記録されたオリンピック」の開催と「ぶん蔵」の活用について

平成20年7月22日から9月19日まで、「戦前のオリンピック」「では昭和15年に開催予定であった幻の東京オリンピックに関連する資料を紹介し、「戦後のオリンピック」では昭和39年の東京オリンピックに関する資料を紹介するとともに、「ぶん蔵」サイト上での「記録されたオリンピック」の活用や成果等を述べたもの。

(5) 国立公文書館所蔵の「サイゴン裁判」関係資料について

サイゴン裁判は、フランス領インドシナの南部都市サイゴンにおいて、1946年10月から1950年3月にかけてフランスによって開廷された日本のB級戦犯裁判である。判決件数は全39件、判決内容は、起訴された人数が230、死刑判決63人、無期判決23人、有期判決112人、無罪判決31人であ

ったというが、資料はフランスでは追跡することができない。よって当館に保存されているサイゴン裁判資料は原告国が裁判資料を保持し、公開している他の一部のB C級戦犯裁判の資料とは異なるものであることを述べたもの。

(6) 行政文書の評価選別に寄与する日本版機能別評価選別マニュアル（素案）作成の試み

本稿は、国立公文書館が平成19年（2007）に実施した「電子公文書等の作成時又は作成前からの評価選別」に係る調査研究の成果に基づき、日本における機能別評価選別（マクロ評価）の在り方を考察したもので、日本版機能別評価選別マニュアル（素案）の作成については、どのような点に留意し、どのような特徴を持ったマニュアルを作成したのかを論じたもの。

(7) 国立公文書館における日本の中国調査資料の紹介 — 内閣文庫を中心に

国立公文書館の内閣文庫は、江戸幕府から受け継いだ蔵書を中心とし、明治政府以降の内閣が収集した数多くの文献を収蔵している。その蔵書数は、約49万冊を数える。現在、アジア歴史センターにおいてその一部をデジタル画像という形で閲覧できる。本稿は内閣文庫の特に中国に関する資料が多く含まれる「興亜院他刊行物」164簿冊の資料について、その大略を示した上で、「大東亜国土計画」や「重慶政府の政情」、「中共概説」等の資料の紹介を行ったもの。